



TITLE:

天界雜報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天界雜報. 天界 1931, 11(125): 420-423

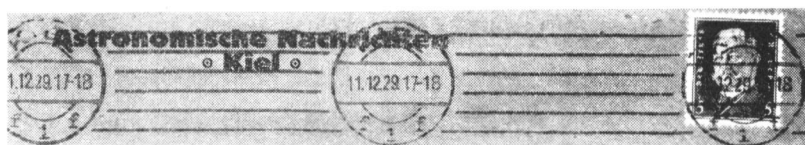
ISSUE DATE:

1931-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161705>

RIGHT:



## 天 界 雜 報

### 長く見失はれし二つの小遊星再発見さる

第285號 Regina という小遊星は1889年に発見されたきり、今日まで見失はれて行方不明であつたが、木星攝動の研究の結果、1911年度に偶然見つけられたMQと呼ぶ星と同一のものであることが近頃確かめられた。(R. I. 399)又、第637號 Gunlöd という小遊星は1908年に発見されたまゝ行方不明になつてゐたが、去る1930年五月から七月までにわたり、南阿ユニオン天文臺でフランクリンアダマス寫眞機により撮影された一小遊星が全く此の行方不明のGunlöd星であることが軌道計算によつて確證された。(R. I. 413)

### 行方不明の小遊星

一千有余の既知の小遊星のうちで、発見されたきり、其の後一回も再出現が認められず、従つて行方不明のものは下表の通り(但し、1921以後のものを省く)

155	1875	493	1915	632	1907	831	1916	912	1919
220	1881	496	1902	647	1907	835	1916	913	1919
309	1891	515	1903	650	1907	841	1916	919	1918
315	1891	525	1904	668	1908	843	1916	936	1920
330	1892	531	1904	681	1909	855	1916	938	1920
392	1894	553	1904	682	1909	864	1917	939	1920
400	1895	561	1905	710	1911	869	1917	941	1920
452	1899	587	1906	719	1911	870	1917	942	1920
457	1900	591	1906	724	1911	871	1917	948	1921
459	1900	603	1906	728	1912	875	1917	963	1921
463	1900	605	1906	750	1913	878	1916	969	1921
464	1901	610	1906	810	1915	879	1917	970	1921
473	1901	612	1906	821	1916	881	1917	980	1921

### 小遊星「花山第四號」

中村要氏が去る 1930 年 8 月 17 日に發見した「花山第四號」小遊星（始めは第 441 號 Batilde 星と思はれてゐた）は、近着の B.Z. 第 7 號に據ると、獨乙ベルリン中央局で 1930 QS といふ假名が與へられた。（花山ブレテン第 180 號，第 184 號参照）

因みに，「花山」と名の附いた小遊星は今まで五つであつて，下の如くである。

花山第 1 號	=	1930 SR
“ 第 2 號	=	1930 SB
“ 第 3 號	=	1930 SS
“ 第 4 號	=	1930 QS
“ 第 5 號	=	1931

### 井ルク氏の星團

ポーランド國クラカウ天文臺のキルク Wilk 氏は 1928 年にジャコビニ彗星(1928b)を捜してゐる時に一つ新しい星團を發見した．其の位置は

赤經  $7^h 31.0^m$  赤緯  $-11^\circ 44'$  (春分點 1855.0)

直徑は約  $2'$  といふことであつたが，近頃オンドレヨフの天文臺で觀測された所では，たて  $11'$  よこ  $6'$  の大きさに擴がつてゐる橢圓形の散開星團であつて，星は 13 級乃至 16 級のものから成り，口徑 21 センチの眼視望遠鏡でも立派に見え，フランクリンアダムス寫眞にも明らかに現はれてゐる．

### ベテルギウス星附近に一新星團

本年初頭チェコ國プラハ在オンドレヨフ Ondrejov 天文臺で，シュラー Fr. Schüller 氏が，口徑 20 センチ F.4.4 のクク製寫眞鏡により新しい一星團を發見した．位置はオリオン座星，即ちベテルギウス星附近で，B.D. +  $7^\circ 10' 16''$  といふ星の南  $0.3$  に當り，

赤經  $5^h 40.7^m$  赤緯  $+7^\circ 21'$  (春分點 1855.0)

上記の器械により 5 時間半の曝露で，16 級乃至 18 級の微光星團として現はれ，星團の直徑は  $6'$  ある．之れはバーナードの第 36 號暗黒星霧の附近であるが，バーナードは之れをリク天文臺 Publication 第 13 卷にも，銀河寫眞

帳にも記載してゐない。多分其の時使つた寫眞器が不充分のものであつたのだらう。ルンド天文臺長ルンドマルク博士の説によれば、之れがフランクリン・アダマス寫眞に現はれてゐないのは此の寫眞の光度限界が $15.0^m$ であるためである。又、ナルフバリ―ザ星圖に出てゐないのも、此の星圖が $15.3^m$ までしか含んでゐないためだらうといふ。距離は少なくとも30000光年のものらしい。

ハイヴ―ド大學天文臺長シャプレイ氏は、後に此の星團を南阿ブル―ムフオンティン出張所、10時<sup>1</sup>メトカ―フ寫眞機で撮つた寫眞中に見つけ出した。[I. A. U. Circular 309, 316]

### 鱧座に一新星團

前記オンドレヨフ天文臺では同じ20センチ寫眞器により、一角獸座星の西南約 $1.3^\circ$ 即ち

赤經  $7^h 32^m 1$  赤緯  $-10^\circ 24'$  (春分點1855.0)

の點に直徑約 $3'$ の一つの新しい星團を發見した。形は小さいが星數多く、集團性著しい散開星團である。[I. A. U. Circular 316]

### ルンド天文臺より新發刊

スウェーデン國の學都ルンド(北緯 $59^\circ 42'$  東經 $0^h 52^m 45^s$ )の天文臺は西曆1668年、Academa Carolina Conciliatrix と呼ぶ王立大學が創立されて間もなく建てられ、最初は「トレミ―教授」たるスポーレ Andreas Spole (1630生—1699死)が其の主任となり、其の官舎の四階に望遠鏡を据え付けたが、不幸にして1676年デンマルク國との戰亂に際し、焼けて了つた。第十八世紀初に同市の僧正館(今日「舊圖書館」と呼ばれてゐる)の高塔上に再建せられ、之れが近年まで維持されたが、1867年に現今の天文臺が建設された。此の天文臺はメラ― Axel Möller 教授が前後32年間も臺長として重要な研究をなし、學界に重きを置かれたが、其の後、我が「天界」第5巻にも長文を載せたことのあるシャリエ C. V. L. Charlier 教授が之れを統轄し、特に統計天文學の新分野を開いた。シャリエ氏は1900年から Meddelanden fran Lunds Artronomiska Observatorium といふ研究報告雜誌を發刊した。之れは今も續刊されてゐる、

シャリエ氏が1927年に定年退職されて、後にlundマルク Knut Lundmark氏が臺長となつたが、最近此の天文臺からはLund Observatory Circularと題する小出版物を發刊されることとなり、其の第一、第二號は共に本年1931三月31日附で諸方へ配布された。勿論、之れは速報的のものであつて體裁などはほゞハーワード天文臺のブレテンに似てゐる。今後の發達を祈る。

#### 第四回國際天文同盟總會

國際天文同盟は、第一回總會を1922年にロマで、第二回總會を1925年ケンブリヂで、第三回總會を1928年にライデンで開いたが、次ぎの第四回は、1932年八月末に米國東部で皆既日食があることを利用し、其の年の九月の上旬に、ハーワード大學天文臺で開かれることに定まつた由。

#### ジンス氏とエデントン氏の著書について

去る2月19日から21日まで小生は BK から「エロスを見送りつゝ」、宇宙に關する新説「天文より神秘宗教へ」と題する講演を放送しましたが、其の後、諸方から此等の事につき参考書の問ひ合はせがあります。「天界」の讀者には此等の書物の事は屢々紹介しましたから、不必要かも知れませんが、念のため、下に掲げます、(山本)

Sir Arther Eddington,

The Nature of Physical World. (1928)

Sir James H. Jeans,

The Universe Around Us. (1929)

The Mysterious Universe. (1930)

The Cambridge University Press, 發行, London.

#### 上田教授新任

今春歸朝された元本會副會長上田助教授は去る八月八日教授(二等)に任命された。こゝに御披露を兼ねて祝意を表する。